



2013年 外国語教育セミナー

於：関西大学千里山キャンパス（大阪）
上智大学四谷キャンパス（東京）

—報告書—

2013年11月29日

主催：公益財団法人国際文化フォーラム（TjF）
共催：関西大学大学院外国語教育学研究科（大阪会場）
上智大学一般外国語教育センター（東京会場）
後援：文部科学省
助成：在日本中国大使館教育処

1. 事業名称 「2013年 外国語教育セミナー」

2. 事業実施にいたる背景

TJFは、2012年3月に発表した「外国語学習のめやす2012」で、総合的なコミュニケーション能力を育成する新しい外国語教育の理念、目標、内容、方法を提案しました。「めやす」完成以前の2009年度から、全国の英語、中国語、韓国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、日本語等、あらゆる言語の教育に携わる指導者、研究者、その他関係の方々を対象としたセミナーを開催してまいりましたが、今年度より『外国語学習のめやす』（以下「めやす」とする）の背景理論としてのSNA（ソーシャルネットワーキングアプローチ）や、文部科学省が推奨するCANDOリストの活用についてなど、話題のテーマを通じて、「つながりと社会活動を通じたことばの学び」を考えています。

3. 事業目的

- ・グローバル社会に対応できる人材を育む外国語の授業について考えます。
- ・つながりと社会活動を通じたことばの学びに対する理解を深めます。
- ・外国語教育における「CAN-DO」の活用を促します。
- ・言語（中国語、韓国語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、日本語等）の枠を超えた外国語担当教師のネットワークを強化します。

4. 事業概要

○期間および会場

期 間： 2013年8月4日（日）（3コマ、1コマ90分）

会 場： 関西大学（千里山キャンパス）

期 間： 2013年8月10日（土）（3コマ、1コマ90分）

会 場： 上智大学（四谷キャンパス）

○実施機関

主 催： TJF

共 催： 関西大学大学院外国語教育学研究科（大阪会場）

上智大学一般外国語教育センター（東京会場）

後 援： 文部科学省

助 成： 在日本中国大使館教育処

○講師

當作靖彦（とうさくやすひこ）

カリフォルニア大学サンディエゴ校教授。アメリカ日本語教育学会会長。

現在世界 9 カ国で実施している日本語教育改善プロジェクトの責任統括者。

吉田研作（よしだけんさく）

上智大学教授。上智大学言語教育研究センター長。

文部科学省の外国語教育における「CAN DO リスト」の形での学習到達目標設定に関する検討会議で座長を務める。

○参加者数（講師を除く）

中国語、韓国語、英語、仏語、独語、西語、露語、日本語教育関係者 計 62 名

中国語、韓国語、英語、仏語、独語、西語、日本語教育関係者 計 89 名

合計 151 名

○テーマ

つながりと社会活動を通じたことばの学び

5. 研修の内容

2009 年度から実施されている本研修は、グローバル時代におけるあらたな外国語教育のアプローチを、あらゆる言語教育関係者たちと共有することを目指し、以下の目的を設定して実施しました。

- ・グローバル社会に対応できる人材を育む外国語の授業について考える。
- ・つながりと社会活動を通じたことばの学びに対する理解を深める。
- ・外国語教育における「CAN-DO」の活用を促す。
- ・言語（中国語、韓国語、英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ロシア語、日本語等）の枠を超えた外国語担当教師のネットワークを強化する

21 世紀のグローバル化に対応できる人材に必要な 2 大能力とはコミュニケーションと協働作業によって「つながり」を作る能力と 21 世紀が直面する環境、人口移動、気候変化、エネルギー、食糧等の複雑な問題を解決する「高度の思考力」と言われています。今回は、「めやす」の背景理論としての SNA（ソーシャルネットワーキングアプローチ）や、文部科学省が推奨する CANDO リストの活用についてなど、今話題のテーマを通じてつながりと社会活動を通じたことばの学びを考えました。

○2013.8.4(大阪会場)

1時限: グローバル時代の人間育成と言語教育

當作教授による講義。「つながる」力と「高度の思考力」を含む「社会力」を養う言語教育の新しい方向性が示され、グローバル時代に必要なイノベーターとなれる人材を育成する言語教育の環境作りの必要性を参加者とともに考えました。

2時限: つながりと社会活動を通じたことばの学び

當作教授による講義。「外国語学習のめやす」の理念、教育目標、学習目標を考え、21世紀の時代を反映した新しい言語教育の方向性、可能性を参加者とともに考えました。

3時限: 「外国語学習のめやす」を实践したクラス活動

當作教授のワークショップ。「めやす」では、教科書をもとにカリキュラムを決めるのではなく、学習者のニーズをもとに達成したい目標を決定し、それをもとにカリキュラムを作ることを提唱しています。また、目標を達成したかどうかを調べる評価を教える前に作ってしまうことも推奨しています。そこで、クラスのシラバスで学習者に Can-do 記述によりどのようにクラスのゴール、オブジェクティブ、アウトカム、そしてアウトカムをもとにした評価方法、評価基準を示すことが可能か考えました。

○2013.8.10(東京会場)

1時限/講義: 「外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定」について

吉田教授の講義。文部科学省が取りまとめた「各中・高等学校の外国語教育における「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標設定の手引き」を紹介するとともに、「CAN-DOリスト」を活用した英語(外国語)教育の意義について考えました。

2時限/講義: つながりと社会活動を通じたことばの学びを考える～『外国語学習のめやす』を例に

當作教授の講義。21世紀のグローバル社会で言語を使い、社会を作っていく能力をつける、21世紀の世界を反映した外国語教育のアプローチを示す「外国語教育のめやす」を通して、私たちが行っている言語教育を見直しました。

3時限/ワークショップ: Can-doによる学習達成目標設定と評価

當作教授のワークショップ。「めやす」では、教科書をもとにカリキュラムを決めるのではなく、学習者のニーズをもとに達成したい目標を決定し、それをもとにカリキュラムを作ることを提唱しています。また、目標を達成したかどうかを調べる評価を教える前に作ってしまうことも推奨しています。そこで、クラスのシラバスで学習者に Can-do 記述によりどのようにクラスのゴール、オブジェクティブ、アウトカム、そしてアウトカムをもとにした評価方法、評価基準を示すことが可能か考えました。

6. 事業の成果

2009 年度より実施している本セミナーは、中国語教育および韓国語教育関係者を主な対象としてきました。今年からは、広く外国語教育(国語教育、日本語教育関係者を含む)に携わる方を対象とし、これまでの年 1 回、5 日間のプログラムを会場を大阪と東京に分けて、1 日のセミナーを複数回実施することにしました。その結果、これまで以上に多様な外国語教育関係者の参加を得ることができたばかりか、これまで、開催地域が自宅から遠いなどの理由で来られなかった方にも受講していただくことができ、両会場をあわせると例年よりも 1.5 倍～2 倍の方にご参加いただくことができました。また、外国語教育は、グローバル時代を向かえ、「つながり」の力が重要になっていることを理解するとともに、指導する言語が異なっても教育上の目標は共有することができることを参加者間で確認しました

7. 今後の課題

今回は大阪、東京ともそれぞれ1日のセミナーとしたため、実践的な活動に十分な時間をとることができませんでした。また、講演が中心の研修となったため参加者間の連帯を図る場を十分に提供することができませんでした。参加者からも、「ワークショップの時間をもっととってほしかった」という声が寄せられており、今後、実施期間および内容について改めて検討が必要と考えています。

研修のひとこま

8月4日 大阪会場



8月10日 東京会場

